



# 「セクシュアル・マイノリティの生活とお金に関する問題を解決・改善することによって自己肯定感と社会参加への意欲の増進を図る」

## G-FRONT 関西

### 1 当会の活動の目的と内容

当会は1994年に既存の3つのゲイ・サークルが統合して「ゲイ・フロント関西」として発足しました。その後、別称として用いていた「G-FRONT 関西」に会名を変更しました。活動の目的として「社会にセクシュアル・マイノリティ（性的マイノリティ、性的少数者、LGBT等とも言う）の存在を知らせ、セクシュアル・マイノリティへの差別と偏見を解消し、セクシュアリティの多様性を認めさせる。」「大多数のクローゼットな（自分のセクシュアリティを公表していない）状態にあるセクシュアル・マイノリティに情報を提供し、孤立しがちなセクシュアル・マイノリティを支援し、そのネットワーキングをすすめる。」の2点を掲げています。

任意団体として大阪市内に事務所を置き、月に約10回の活動（ミーティング及びイベント）を継続的に開催しています。定例の活動として、勉強会（参加者がテーマを決めて発表するセミナー、読書会など）、交流企画（パーティー、名所・神社仏閣巡り、書き初めなどの季節行事、セクシュアル・マイノリティのパレード参加など）、参加者による意見・情報交換会（家計、就労、健康、趣味などについて）、新規参加者への説明会 & 交流会、会報発行（月刊『UP&UP』・通巻386号）、インターネットWEBページやX

（旧Twitter）による広報などを行っています。

講師を招いての講演会等を毎年開催しています。これまで開催したものには以下のようなものがあります。（括弧内は開催年と講師・肩書きは講演当時のもの）「同性愛の社会史」（1996年・関西学院大学非常勤講師 古川誠氏）、「セクシュアルマイノリティのコミュニティ形成とサークルのこれから」（2001年・東京レズビアン&ゲイパレード2000実行委員長 砂川秀樹氏）、「トランスジェンダリズムにみる「可能性」～性科学研究者の視点から～」（2005年・大阪府立大学助教授 東優子氏）、「シングルと同性パートナーのためのライフプランと法制度」（2009年・文京区議会議員 前田くにひろ氏・弁護士 大畑たいじろう氏）、「社会へのはばたき～教育現場、LGBT成人式、そして就活支援から見えてきたもの～」（2015年・NPO法人 ReBit 代表理事 薬師実芳氏）、「日本トランスジェンダー史・女装史とLGBTブームを追う」（2017年・三橋順子氏）、「ゲイというライフスタイルから社会を考えて、18年後の今は～ゲイ雑誌編集者・斎藤靖紀から女装パフォーマー・ブルボンヌになって～」（2024年・斎藤靖紀 / ブルボンヌ氏）

不定期に機関誌『ぼこあぼこ』・報告書等の発行も行っています。これまで発行したものには以下のようなものがあります。（括弧内は発行年）

『ぼこあぼこ 3号 ゲイと家族と結婚』(1994年)、  
『ぼこあぼこ 7号 オネエ』(1996年)、『ぼこあぼ  
こ 15号 上下 性別というもの、こと』(2000年)、  
『ぼこあぼこ 19号 エイジング』(2004年)、『ぼ  
こあぼこ 20号 セクシュアリティを学ぶ』(2007  
年)、『ぼこあぼこ 23号 講演録(3)』(2021年)、『抗  
議活動総括集 1996年3月27日発売 同性愛者差  
別図書 扶桑社・ニッポン放送「野茂とホモの見  
分け方』(1997年)、『活動紹介冊子 G-FRONT  
関西の活動 1994年4月～2024年3月』(2024年)

いずれも会員が関心を持ったテーマを提案・  
検討して開催・発行してきました。テーマはそ  
の時々々の社会やコミュニティの関心事や課題を  
反映しています。

活動資金としては会員からの会費、カンパ、  
イベントの参加費、出版物の売り上げ等に加え  
て、講演会などを開催する際には助成機関に申  
請をして採択されれば活動助成金を受けていま  
す。恒常的な運営経費としては、いかなる組織  
からも提供は受けていません。スタッフも等し  
く会費・参加費を負担し、活動においてスタッ  
フが報酬や金銭的な優遇を受けることはありません。

## 2 セクシュアル・マイノリティの生活とお 金に関する問題

セクシュアル・マイノリティは様々な差別や偏  
見に遭うことを恐れて、多くの場合はクローゼッ  
トな状態にあります。そのために、社会からの疎  
外感を持ち、将来に向けてどのような生活設計を  
してゆくかについて、積極的に自分の願望を明か  
して情報を得ることが困難で、人生のロールモデ  
ルがないという不安を抱えています。

とかく若さが重視されることが多いセクシュ  
アル・マイノリティのコミュニティにおいては、  
年を取っていくことや生活をしてゆくことの不

安について当事者同士で話をしたり知識を得る  
機会が少ないと感じ、当会では2002年頃からエ  
イジングについて積極的に取り上げ、定例の活  
動や講演会のテーマとしてきました。その過程  
でお金についても考えたいという意見が出るよ  
うになりました。

セクシュアル・マイノリティで、シングルで  
生きていきたいと願う人は、自分のいざという  
時に誰に頼ることができるのだろうかという不  
安を抱えています。自分のセクシュアリティが  
家族から受け入れられないと感じる人は、若年  
のうちから家族や血縁者との関係も疎遠になる  
こともあります。トランスジェンダーでは、望  
む性での生活や就労にはまだまだ困難が多い状  
況にあり、経済的に不安定な人も多いです。また、  
年を重ねるにつれて医療や介護の不安も大きく  
なり、それに必要な資金の問題も気になります。

戸籍上の同性パートナーについては、同性間  
では結婚制度がないことから、法律婚上での夫  
婦では認められているような権利を享受できな  
いということがあります。財産の共有や、勤務  
先での福利厚生の対象として認められないこと  
もあります。また、賃貸住宅で同居している同  
性パートナーで契約者が死亡すると住み続けら  
れない、法定相続人として財産の相続ができな  
い、等の問題もあります。

お金の問題はセクシュアル・マイノリティに  
とって生計を立てるためのみならず、自分のセク  
シュアリティが社会的にも認められ、そして自尊  
感情を高められるためにも、重要なことです。

## 3 金融相談等活動助成事業による活動

上記のような問題を解決する一助とするため  
に、当会では、2020年度から2023年度まで、及  
び2025年度にゆうちょ財団様から金融相談等活  
動助成事業の助成をいただき、セクシュアル・マ

---

イノリティのお金に関する問題や金融活動に関して6回の講演会を開催してきました。以下に講演概要を示します。複数回講師として登壇いただいた永易至文氏（行政書士・東中野さくら行政書士事務所・NPO法人パープル・ハンズ事務局長）は、1980年代末からゲイのコミュニティ活動にかかわり、セクシュアル・マイノリティのお金や暮らしの問題に精通しておられます。

2020年度「性的マイノリティのマネープラン」及び「性的マイノリティのライフプラン」では永易氏に講演をいただきました。ちょうど所謂「老後2千万円問題」が沸き起こった直後で、多くの人が将来へのお金の不安を新たにした時期でもありました。結婚して二子を持つといういわゆる標準家族を営まないセクシュアル・マイノリティが、金融制度や社会保険・社会保障制度の活用について知り、セクシュアル・マイノリティに即したライフプランやマネープランを立てるための情報の提供がなされました。

2021年度「性的マイノリティが自分らしく働く・自分らしく生きる～キャリアプランとマネープラン～」（講師：永易氏・社会保険労務士 永井均氏）では「働くこと」に着目しました。標準家族を営まないセクシュアル・マイノリティは労働において「子供や家族を養う」といったようなモチベーションの維持が困難であったり、労働で差別やハラスメントを受けがちです。それに対応するために、自己実現のために具体的な目標を設定する「キャリアプラン」という観点と、そのために活用できる諸制度や金融知識について説明がなされました。

2022年度「性的マイノリティが社会で主体的に役割を担う未来～インクルージョン&ダイバーシティ」では、セクシュアル・マイノリティ当事者で、アパレル、シェアスペース、飲食事業などを商業ベースに乗せて事業化した細川裕之氏（オ

ルガワークス株式会社専務取締役）に、セクシュアル・マイノリティが事業として金融・経済活動に取り組む実践例の紹介がなされました。

2023年度「性的マイノリティの立場から提唱する新しい福祉の形とは～グラデーション&インクルージョン～」では細川氏に、設立、運営に取り組まれた複合福祉拠点について紹介をいただきました。本施設は訪問看護事業所、健康相談所、就労支援作業スペース及び販売店舗、飲食店などが入居して、多世代が交流する地域福祉の新拠点を目指しています。その背景には細川氏のマイノリティ目線での「デザイン思考」があります。設立、運営の上での行政との連携や金融支援制度の活用について説明がなされました。

2025年度「ハッピー・セクシュアル・マイノリティ・ライフのための老後のお金の使い方・殖やし方」（講師：ファイナンシャルプランナー 植田香代子氏）では、「お金を殖やす」ことに焦点を当て、年金受給額を増やす方法や、インフレによるお金の目減りを防ぐための資産運用について解説がなされました。併せて、お金などの地位財と共に、経験などの非地位財の価値も考慮して計画を立てることの必要性も提唱されました。加えて、結婚制度がないことによって法定相続人になれない同性パートナーに財産を残す手段や、一方、財産を残したいパートナーや子供がいないセクシュアル・マイノリティもいることから、自分のために有意義にお金を使っていった最後には零にする方法についても紹介がなされました。

個人や家庭の生計、貯蓄、資産運用、そして会社経営、コミュニティ形成など、お金に関わる種々のテーマについてセクシュアル・マイノリティ当事者が考えるきっかけと情報を提供する場となった活動に対して助成をいただけまし

たことについて、ゆうちょ財団様には厚く御礼を申し上げます。今後も金融知識の普及に関する活動には意識的に取り組みたいと考えています。そのことはセクシュアル・マイノリティにとって経済的に役に立つだけでなく、自己肯定感や社会参加への意欲の増進に繋がることであると期待しています。